

本園における障害児教育のとりくみ

—— 大頭症児との交わり ——

(4)

名 倉 啓太郎 〇 森 本 香 里 戸 波 和 子 鈴 木 道 子
 (大阪樟蔭女子大学) (広島女学院ゲーンズ幼稚園) (同 左) (同 左)

I 問 題

集団保育において、「大頭症」(脳水腫)と診断されたK児が保育の中でどのように教師や友だちとの人間関係を成立させ、また運動、言語、知能等の面でどの様に成長発達を遂げたか、その様相と過程について明らかにしたい。

「大頭症」の診断を受けるが手術の必要はなく生活上の注意事項は医療面からは特になくことが明らかにされた。日常の生活を通して、体を使い、集団の中で生活経験を持つことが最も健全な成長を遂げると考えられ、医師の勧めで入園の運びとなった。

K児の入園に当たって、担任教師自身も「大頭症」に対する知識も浅く、また大頭症児の保育経験もないので、集団生活に対する、多少の不安があった。またその当時のK児は頭が異常に大きく、四肢の筋肉のはりが弱く、少しの段差も尻を落としてはうようだった。日常生活における言語理解の様子から考えても、人と交わって行けるか、安全に生活させて行けるのだろうかと不安と懸念を持ちながら、手さぐりの状態で、教師も学びながら進めていった。その過程を報告する。

II 家族及び生育歴

(1) 家 族

父, 母, 本人(K児)

(2) 生 育 歴

昭和52年7月6日生

出生時…… 正常分娩

身長53cm・体重4.13kg・胸囲34cm・頭囲36cm

○ 1ヶ月検診時

身長57cm・体重4.5kg・胸囲37.5cm・頭囲38.5cm

普通の子より体が柔らかく、頭も大きいので抱くときに注意するよういわれる。

○ 3ヶ月検診時

身長61cm・体重5.25kg・胸囲38cm・頭囲41.5cm

筋トーンが弱く、両手を引っぱって引き起こすと、頭がついてこず、首がすわっていないので、医師より、小児麻痺になる可能性があるといわれる。

○ 6～10ヶ月までH大病院にて入院検査

脳波CTスキャンをとるが異常なし。心電図は異常。心中隔欠損といわれる。

○ 1才1ヶ月検診時

他の子どもに比べ脚の力が弱い。下肢の力が極端に弱いので歩く可能性はないのではないかといわれる。この頃、脚のギブスをはめる。

○ 2才9ヶ月検診時

ギブス治療をやめ、指圧に通う。

○ 3才6ヶ月時

始めて自分の脚で歩く。「カワイイ」という単語が始めて出る。

○ 4才3ヶ月時

衣服の着脱はひとりで出来ず、排便を知らせることが出来ない。排便はパンツの中にする。その後前をおさえて知らせる。頭囲が一年に0.5cm位ずつ大きくなっている。言葉は「チョウダイ」という程度で発音も不明瞭でほとんどしゃべらない。理解力も不良。集団の中でもひとりで遊んでいる状態。

III 入園後の経過

(1) 一学期(4～7月) 4才9ヶ月で入園

身長96.8cm・体重19.2kg・胸囲59cm・頭囲55.7cm

< 体・運動機能 >

体型は、身長割合に頭囲が大きく、下肢が短かくお腹がふくらんでいる。当初ほとんど外遊せず室内で遊ぶ。歩き方はぎこちなく、階段の登りにはわきをしっかりと握り、降りる時には、腰をおろして、片足ずつ足を出す。靴は脱ぐことが出来るが、自分ではくことは出来ない。

1ヶ月を過ぎた頃、2km程歩いて山に登る。行きは、教師が手を引いて進むが、他の子どもにかなり遅れる。帰りは、教師がおぶって帰る。体のバランスが悪く、シーソーに乗せてやると、恐ろしくて泣き出す。体を支えていても耐えることができない。

< こ と ば >

基本的な生活習慣に関する理解はある。言葉による応答はないが、行動で理解を示す。K児から発する言葉は好きな車のおもちゃや乗り物、あるいは降園に関することが多い。「キシャ ツイタヨ」とか「パス キタヨ」などである。彼の言葉に、はっきりした口調でゆっくり繰り返してやったり、返答すると、おうむ返しに繰り返すこともある。

< あ そ び >

車のレールを組み合わせて遊ぶ。ほとんど横にご

ろっと寝て片手で走らせる。室内の遊具、用具に興味があり、手あたりしだいに床に引き降ろしてみる。

<園児との交わり>

K 児からの言葉による働きかけはほとんどない。K 児の好きな汽車のレールを組み立てて遊ぶ時には、その輪の中に入り他の子どもの様子をじっと見ている。他の子ども達は、K 児の頭が大きいことや、言葉を発しないことで、異和感を持っていた。学期の終わり頃、年長組の二人が、始めは足をかかえるようにして K 児に足の動かし方を教えてくれるものもいた。

<教師との交わり>

K 児から笑顔を向けることはなく、関心を示さなかった。1 ケ月を過ぎた頃、遊具を要求して、「キシヤ・イイ」と言葉を発してくる。

<母親との交わり>

入園前には、素直に指示に従っていたが、気に入らないことがあると「イヤ」と強く反発し、自我の芽ばえが著しい。

(2) 二学期（9～12月）

身長 99.6 cm・体重 19.8 kg・胸囲 57.3 cm

<体・運動機能>

進んで外遊するようになる。素足になってもいやがらずに歩く。靴の脱ぎはきが自由に出来るようになる。1 km 位の道のりなら他の子どもに遅れずに歩く。三輪車や車に興味を持ち、ペダルに足をかけてこぐ真似をする。

<ことば>

行動と共に言葉が出るようになった。「イクヨ」とか「アブナイヨ」という言葉である。日常の言葉「オハヨウ」や「サヨナラ」の言葉の発音はかなり正確である。

<あそび>

汽車、B ブロックに加えて、ままごと遊びを好む。ドンクリの実をコップに入れて、教師や子どもに手渡す。食べる真似をすると満足そうにしている。模倣が出てくる。箱製作しようと、セロテープと箱を持ってくる。カッターでセロテープを切ることは出来る。

<園児との交わり>

教師に他の子どもを指さして「ココ」といって名前をたずねる。汽車等で遊んでいる時、K 児の気に入らないと「ウン」といって抗議するようになる。

<教師との交わり>

教師の問いかけに「アイ」と返答するようになる。遊んでいても、何か完成すると「デキタヨ」と声をかけて来るようになる。

<母親との交わり>

1 対 1 の対応はかなり出来ている。K 児から問いかけも多くなっている。

(3) 三学期（1～2月中途まで）

身長 102.4 cm・体重 20 kg・胸囲 59.3 cm・頭囲 53.7 cm

<体・運動機能>

頭囲が小さくなり、体がスマートになる。階段の登り降りも腰をつけずに片足ずつ進むようになる。

<ことば>

興味のある事柄では「オジチャン・ココ・イル」のような言葉が出る。生活に必要な言葉はほとんど理解している。

<あそび>

ままごと遊びを好む。犬の人形を持って来て、背中につけてほしいと要求してくる。汽車に小積木やブロックを組み合わせてあそぶ。横に寝そべることもなくなる。

<園児との交わり>

教師を紹介することなく K 児に子ども達が好意を示す。ダンボールで車を作り、中に入れて引いてやる。また友達のブロックの完成を見て手をたたいて喜ぶようなところも出てきた。歳下の男の子の世話をする。M 君の危険な時には「アブナイヨ」と声をかけ、体を引っぱるようにするようになる。

<教師との交わり>

教師の顔を見て対話する。言葉の理解が出来ない時じっと教師の顔を見る。背中におんぶしてほしいと要求して来るようになる。

<母親との交わり>

強制されるととても強い意志で反発する。

Ⅳ 考 察

入園当初、四肢の筋肉が弱く、歩行の経験が少なく、心臓も弱いことから、無理な運動は出来なかった。危険に対する対処の仕方も悪いので、行動を常に把握し安全に生活出来るように注意せねばならなかった。しかし、園生活を続けて行くうちに、皆に受け入れられ、励ましや協力を得て、歩行がスムーズになり、階段の登り降りも出来、弱かった筋肉もしっかりしてきた。頭囲も 1 年間に 0.5 cm 位大きくなると言われていたが、行動に従って小さくなった。言葉も行動に伴って、少しづつはっきりし、理解力も増した。

今後、K 児の興味や要求に従って、出来ることから、K 児に自信を持たせ、いろいろな事に試みさせることが大切である。母親も当初、いらだちがあったり、歪みを持ったりして、落ついて K 児の成長を見つめられなかった。しかし、彼なりのしっかりした育ちに対して母親も共感が出来るようになり、K 児の健康管理に努められている。